

きらめき

プラス

霜月 Vol.27



本日は開店なり

山本信太郎【79歳】



和敬喜心

西平都紀子【51歳】



歌うことの喜び

お恵ちゃん【66歳】



原発・帰還困難区域を訪ねて



塩野崎佳子

明治女が教えてくれた

きらめき人生の心得

石川真理子

白木塾

白木大五郎

士魂商才

守山淳

青勝の「追憶の名画」

青木勝彦

国宝探訪

米本薫

ならぬことはなりませぬ

川崎葉子

相撲道

松田哲博(元一ノ矢)

ご本人の外出の希望を叶える、ということはもちろんですが、外出することで、普段の生活のクオリティ・オブ・ライフの向上、介護予防に繋がり、介護家族への心ケアなど、多角的な超高齢社会を支えるサービスとしてご利用している方の事例をご紹介します。

それは、ふるさと訪問や非日常環境への旅を体験したことで、新しい生きがいや希望を見出したり、日常生活に戻ってからも生活や行動に変化や改善がみられるようになった方がたくさんいらっしゃるという事です。また、身体機能やリハビリへの意欲が向上したり、介護しているご家族やヘルパーへの負担が軽減したり、人間関係が改善された、ということもよく耳にします。また継続的なご利用によっては社会性や経済性を保つことから、ご本人が生きて喜びや自尊心を感じることで行動や考え方が前向きになり、自治体保険者等の費用負担も減少されたというケースもありました。

①埼玉県在住、80歳で脳卒中で倒れ、要介護度3・体幹機能障害1級
88歳お父様とお嬢様ご夫妻の場合
太平洋戦争時、突撃隊として満州に派遣されたお父様の長年の願いは、戦友が鹿児島知覧から特攻隊として出撃する際に、別れを告げた開聞岳を同じ空から見たいということでした。その願いをずっと聞かされていたお嬢様でしたが、要介護3で寝たきりのお父様の鹿児島旅行の手配を引き受ける旅行会社はなかったそうです。ケアマネージャーに、あえる倶楽部のことを教えてもらったお嬢様は、また断わられるだろうと思いつながら「ダメ元」でお問合せをしたそうです。しかし、お嬢様の予想に反して、あえる倶楽部の介護旅行コーディネーターからの返事は「ご本人が行きたい、ご家族も行かせてあげたい、主治医やケアマネージャーが了承していたら、地球の裏側だって行ける方法を考えますよ」という明るい返事でした。そして、お父様の想いを叶える2泊3日の九州へのご旅行

が実現したのです。お父様はセスナから見た開聞岳に涙をぬぐい、かつての戦友にお別れを告げました。85歳で長年の夢を果たしたことを契機に、年1〜2回の介護旅行を続けるようになりました。約3年間で長崎、鹿児島、北海道、信州上高地、立山黒部、水上谷川などへ旅行に行きました。行き先はお父様の希望する観光地です。趣味のカメラを首から下げて、旅行先の景色や出会った人たちやご当地グルメに舌鼓をうち、ご自慢の一眼レフで撮影することもお父様の楽しみの一つになりました。そして、もう一つ、お嬢様も、お父様と一緒に旅行に行く事で、親孝行を一つつ叶えていきました。最初の九州旅行は「父の行きたいという願い」を叶えたいという親孝行でしたが、2回目の北海道旅行では「昔父にはよくお風呂にいれてもらっていたから、今度は私が入浴介助して親孝行をした」と、家族による温泉入浴介助も実現しました。お嬢様は「トラベルヘルパーがどうすればいいかを教えてくれたし、一緒に介助してくれたから安心して親孝

心に寄り添い...



トラベルヘルパー®のスマイルレポート

トラベルヘルパー®とは
トラベル+ヘルパー、お客様の介助をしながら外出支援するプロのエスコートサービスのことで介護技術と旅の業務知識をそなえた「外出支援」の専門家です。
身体に不自由のある人や健康に不安がある人の希望に応じて、身近なおでかけから介護旅行の相談、コーディネートまで、暮らしの外出に関わるすべての支援サービスを行います。



今回は、私、篠塚千弘がお届けします。



公的介護保険制度の地域包括ケアシステムでは、日常生活(30分で駆けつけられる)圏域における介護、医療、予防、住まい、生活支援等が制度サービスとして提供されています。ですが、介護を必要とする高齢の方の生活領域は、お墓参りや一時帰宅など、こうした圏域を越えた場所へ行きたいという要望には対応していません。あえる倶楽部には、そういった公的介護保険制度で対応出来ない日常の用事の代行、お買物の付き添い、結婚式、お墓参りなど、旅行というまでもない「生活支援」や「外出支援」のお手伝いのお問い合わせをたくさんいただいています。

ご自宅から車で10分離れたホームに入所して以来、4時間の初めてのご帰宅

にトラベルヘルパーが一緒するという実例もあります。ご本人にとってはとても遠かった介護施設から車で10分のご自宅。住み慣れた自宅にたまには連れてきてあげたい、でも、古い日本の家屋では段差も多く家族や親せきだけではどうしていいかわからない...、ご本人、ご家族、双方の「困った」と「不安」と「危険」をトラベルヘルパーが解決した外出支援の実例です。ご自宅では、総勢11名のご親せきが出迎え、御仏壇へお参りされ、なつかしい我が家の居間のテーブルで、お寿司やうなぎなどのご馳走を召し上がり、なつかしい思い出話に花を咲かせ、ご自宅を出られた頃は涙ぐんでいらっしやいました。こういった外出支援も制度サービスでは対応していません。

また、あえる倶楽部をご利用のお客様(要介護になって、居宅や高齢者施設で公的介護保険サービスを利用している高齢の方)の旅行や外出の実例からわかったことがあります。

行が出来た」とお話し下さいました。

お嬢様はトラベルヘルパーの旅行中の介助の様子を見て、自分で出来る介助について積極的に学んだそうで、ちょっとしたお出かけには、ご自分がお父様を外出に連れ出すようになったそうです。公共交通機関を利用して東京スカイツリーへ見学に行ったり、近くのお寺にお参りに行ったり、ちょっとしたお出かけは家族の力で不安なくできるようになり、家族の介護力も向上しました。

②埼玉県在住 73歳男性

脳梗塞・心筋梗塞・糖尿病

脳内出血 要介護度4

2011年11月に九州のふるさとへ墓参りと親戚へのあいさつ回りのお父様いわく「人生最後の旅」をトラベルヘルパーが一緒させていただきました。移乗時や移動中の振れにも全身の強い痛みを訴えられ、痛みをこらえながらの墓参りと親戚の方々の再会は、涙、涙で感

もご自分で箸や茶碗を持ちおしゃべりしながら楽しみ、なによりも家族との会話を楽しんでいらつしゃいます。昨年の夏には新しい水着を購入し、ふるさと千葉の海での海水浴も実現されました。

④東京都在住 78歳男性

70歳で脳卒中・脳挫傷・左半身麻痺
軽度認知

もともと旅行好きでしたが、歩行困難の為、外出はできず、家族も高齢な為トラベルヘルパーを利用して一時帰宅から外出することが始まりました。以降、外食、映画鑑賞、スポーツ観戦等、半日おでかけを8年間続けられました。リハビリ時間を増やしたいと足こぎ車いすを購入し、体力の維持に勤めたり、テレビや新聞、雑誌等も、ただ見るだけでなく、展覧会やレストラン情報を収集する媒体として意識されるようになりました。また、簿記検定を受験したり、英会話の勉強を始めたりと、生活に張り

激の連続でした。帰路の飛行機の中で、お父様は旅行成功に自信をつけられ、次は姪に会うために北海道旅行に行きたいと。「自信」と「希望」が生まれたことで、帰宅後は、リハビリに積極的に取り組むようになり、薬を控えたりと、ご本人の努力とご家族や医療介護関係者など、周囲の方の応援と協力で「九州への人生最後の旅」から8ヶ月後、姪に会いに北海道旅行が実現しました。北海道への旅行中に撮影された写真に映るご本人の表情は痛みが和らいだことと「生きがい」のためか、表情が一変して見えました。以後、お伊勢参り、四万十川観光など、大好きな孫との年2回程度の家族旅行を楽しんでいらつしゃいます。

③千葉県在住 98歳女性
要介護度4

年に1〜2度家族との旅行や、大好きな民謡酒場へのお出かけ時にトラベルヘルパーをご利用いただいています。ある

目標ができました。160回以上のお出かけを達成、介護施設から日帰り温泉への外出がようやく許可され、念願の日帰り温泉入浴も実現されました。このお客様は、旅行はされずともお出かけを続けることでクオリティ・オブ・ライフが向上されています。

あ・える倶楽部のトラベルヘルパーサービスは、ただ単に旅行時の付き添いや介助だけでなく、トラベルヘルパーとの外出や旅行をきっかけに、生きがいや希望を見出し、普段の生活に対してリハビリなどに積極的になる方も多くいらつしゃいます。また介護疲れの家族の心のケアにトラベルヘルパーをご利用される方もいらつしゃいます。

保険制度に生活支援や外出支援サービスなど制度外のサービスを組み合わせることで、効果的な介護予防・身体機能の維持向上について、積極的に取り組まれるようになっていきます。



時、民謡酒場へのお出かけ直前に体調を崩し入院され、流動食と点滴で寝たきりという状態でしたので主治医は外出を許可せず、民謡酒場へのお出かけは中止されそうになりました。ご家族が「どうしても母の願いを叶えたい」と主治医を40分説得した結果、万全を期して外出ということでも許可をいただき、民謡酒場へのお出かけが実現しました。外出時には、髪を整えおしゃべりをして外出され、夕食にはビールを飲み、民謡酒場では大好きな民謡を目を輝かせて見入っていらつしゃいました。その後、自信を持たれ、7か月間に6回の外出、家族旅行を実施しています。民謡酒場では自らマイクを持ちご自分で歌われたり、食事

トラベルヘルパーサービスが目指すのは、諦めていた外出を通してご本人やご家族の夢や希望を叶えること。旅行に特化せず、どんな小さな身近な外出でもいいから「諦めていた外出」を叶えること。人の可能性を削ぐものではなく、ただ唯一自分でもうだめだと思ってしまう気持ちだと言います。トラベルヘルパーサービスは、そこを手助けするヒューマンサービスだということをお忘れず、一人でも多くの方の夢や希望を叶えるお手伝いを始めていきたいと思えます。

常務取締役 篠塚千弘

A'EL

あ・える倶楽部
【介護旅行】



(株)SPI あ・える倶楽部

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂
1丁目19番13号トップビル10F
TEL: 03-6415-6480(代表)
FAX: 03-6415-6488
MAIL: tabi@aelclub.com

※トラベルヘルパー®は、(株)SPI あ・える倶楽部の商標登録です。